

2019年度の統計 医学協会の人間ドック がん検診の結果から がん検診のプロセス指標

後編

企画部 鈴木 貴幸

前編のまとめ

- ①人間ドック受診者数 **男性34,866名 女性21,859名**

- ②総合判定結果 有所見者の割合
特定健診の対象となる**40歳(の時点)で90%の受診者に所見(C・D2・D1)有**

- ③有所見者割合の上位項目 **男性女性とも1位は糖尿病**

- ④生活習慣病関連項目の異常頻度・有所見者割合
男性女性とも糖尿病で全国平均を大きく上回る

- ⑤当会の人間ドックで発見したがん **男性150件／女性91件**

- ⑥発見した臓器別がん症例数(男女合計)
2017年 239件／2018年 222件／2019年 241件
男性は大腸がん・胃がんが多く、女性は乳房がん・大腸がんが多い

- ⑦発見した臓器別がん症例数
p12に記載しています。

- ⑧がん発見率全国集計との比較
当会:0.425% 全国:0.284% 1.48倍の高い発見率

- ⑨部位別がん発見率全国集計との比較
胃がんと大腸がんが高い発見率

腫瘍マーカー検査は、
 がんの発見に役立ちますが、
 がんの発見に役立ちません。

2019年度の医学協会の人間ドック受診者

平均年齢は**54.8**歳、リピーター率は**77.8%**でした。



前編では、医学協会の人間ドック受診者(2019年度)の有所見者割合と所見別結果、発見したがん症例やがん発見率全国集計との比較などを報告しました。
今号は、プロセス指標を情報公開します。

1. プロセス指標とは

精度管理指標の1つで、検診が正しく行われているかを評価する指標です。

◆プロセス指標 ①精検受診率 ②要精検率 ③がん発見率 ④陽性反応的中度

下表の文書において、厚生労働省は、検診の実態やその精度を評価するために、**プロセス指標等に基づいて検討**するように示しています。

検診の種類	住民検診	職場で受ける検診、人間ドック等
	対策型検診	任意型検診
厚生労働省の委員会等	がん検診の事業評価に関する委員会	職域におけるがん検診に関するワーキンググループ
示された文書名	事業評価のためのチェックリスト	職域におけるがん検診に関するマニュアル
配信時期	平成20年3月	平成30年3月

2. 「要精検率」と「陽性反応的中度」の意味

(1) 要精検率

精密検査が必要とされた方の割合で、**基本的には低いほうが望ましい**指標です。
要精検率が高い場合は、不必要な陽性判定によって、本来受けなくてもよい精密検査を受けてしまうことになり、受診者に不利益が生じます。
ただし、要精検率が低すぎる場合は、がんの見逃しが多い可能性があります。

(2) 陽性反応的中度

精密検査が必要とされた方のうち、がんが発見された方の割合です。
検査結果の正答率という意味合いの用語です。検診で効率良くがんが発見されたかを測る指標で、**高いほうが望ましい**指標です。

当会では受診者に不利益が生じないように、がんの見逃しがないように各検査の認定技師が精度と技術の向上に努めています。



3.医学協会のプロセス指標

(1)プロセス指標(人間ドック実績 2017-2019年)

医学協会では、健(検)診を実施するだけでなく、健(検)診後、その診断が正当であったがまで、追いつけています。この統計はその事を証明するものです。



がん検診	年度	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん発見数	陽性反応的中度	発見率
				要精検者／受診者		精検受診者／要受診者		発見がん/要精検者	発見がん/受診者
胃がん検診 (胃部X線)	2017	49,852	1,240	2.49%	912	73.55%	34	2.7%	0.068%
	2018	49,627	1,140	2.30%	862	75.61%	34	3.0%	0.069%
	2019	47,553	938	1.97%	700	74.63%	33	3.5%	0.069%
	合計	147,032	3,318	2.26%	2,474	74.56%	101	3.0%	0.069%
肺がん検診	2017	56,867	469	0.82%	349	74.41%	8	1.7%	0.014%
	2018	57,158	514	0.90%	395	76.85%	5	1.0%	0.009%
	2019	56,188	521	0.93%	405	77.74%	8	1.5%	0.014%
	合計	170,213	1,504	1.75%	1,149	76.40%	21	1.4%	0.012%
大腸がん検診	2017	56,040	2,733	4.88%	1,610	58.91%	63	2.3%	0.112%
	2018	56,328	2,537	4.50%	1,503	59.24%	72	2.8%	0.128%
	2019	55,349	2,661	4.81%	1,556	58.47%	74	2.8%	0.134%
	合計	167,717	7,931	4.73%	4,669	58.87%	209	2.6%	0.125%
子宮頸がん 検診	2017	12,226	146	1.19%	100	68.49%	4	2.7%	0.033%
	2018	12,054	189	1.57%	116	61.38%	0	0.0%	0.000%
	2019	11,692	209	1.79%	160	76.56%	3	1.4%	0.026%
	合計	35,972	544	1.51%	376	69.12%	7	1.3%	0.019%
乳がん検診 (マンモグラフィ)	2017	15,006	455	3.03%	417	91.65%	37	8.1%	0.247%
	2018	14,874	597	4.01%	549	91.96%	45	7.5%	0.303%
	2019	14,676	534	3.64%	502	94.01%	37	6.9%	0.252%
	合計	44,556	1,586	3.56%	1,468	92.56%	119	7.5%	0.267%

(2)プロセス指標の公表について

住民検診(自治体で受ける検診)では、精度管理の仕組みが整備され、検診機関は、行政の求めに応じて、毎年精度管理調査を行っています。

しかし、人間ドックや職域検診では、検診機関の多くが、**がん検診の実施までで、精度管理のための数値を把握していないのが現状です。**

医学協会では、すべての検診において数値を把握し、専門医の指導のもと、質の確保・向上に取り組んでいます。

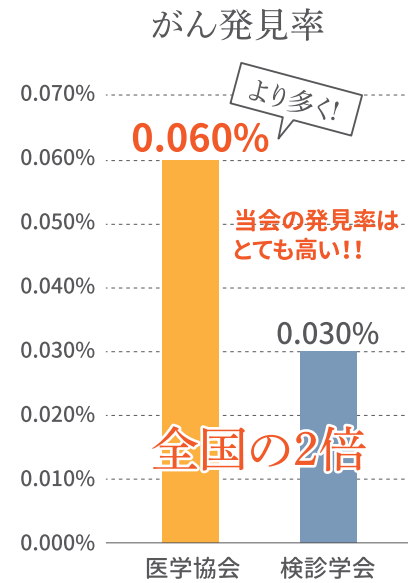
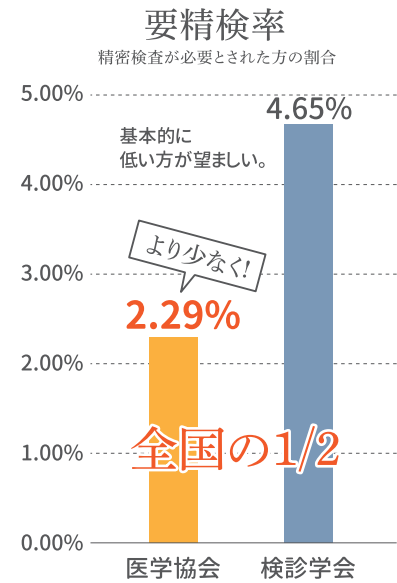
そして、国が「**必要最低限の管理項目**」とするプロセス指標を皆さまにお知らせすることは、**必要最低限のこと**と考え、毎年、公表しています。

【参考】プロセス指標の検証 ～全国集計との比較～

(1) 胃がん検診(2017年度 職域検診)の実績より

	受診者数 (A)	要精検者数 (B)	要精検率 (B)/(A)	精検受診者数 (C)	精検受診率 (C)/(B)	がん発見数 (D)	がん発見率 (D)/(A)	陽性反応 的中度 (D)/(B)
医学協会	89,631	2,054	2.29%	1,428	69.5%	54	0.060%	2.63%
検診学会	2,729,793	126,981	4.65%	63,902	50.3%	825	0.030%	0.65%

検診学会:「日本消化器がん検診学会」集計 全国268機関、受診者数272万人

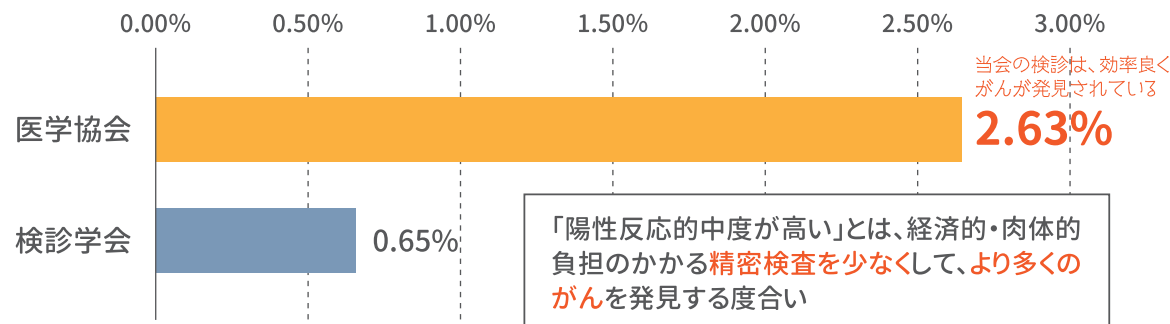


きちんと数値を把握して、品質の向上に取り組み、当会の確かな安心の証明です。

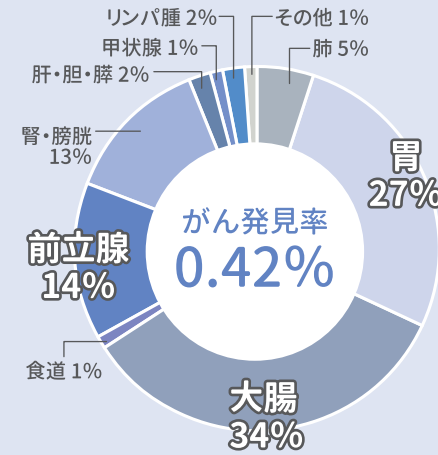


(2) 当会の陽性反応的中度

当会の陽性反応的中度は**2.63%**、検診学会の全国集計は**0.65%**で、**当会が4倍以上高い結果**でした。



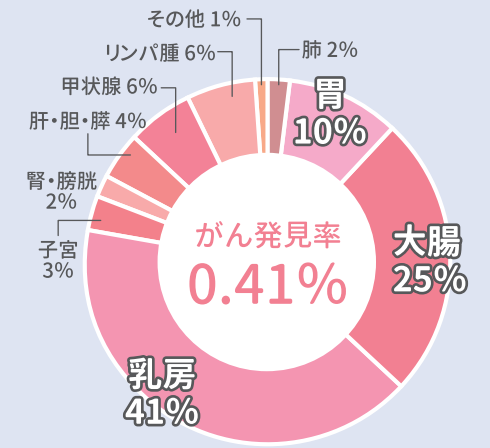
〈2019年度〉当会が発見した臓器別がん症例数



男性

1位 大腸	34%
2位 胃	27%
3位 前立腺	14%

合計 150がん
受診者数計 34,866名



女性

1位 乳房	41%
2位 大腸	25%
3位 胃	10%

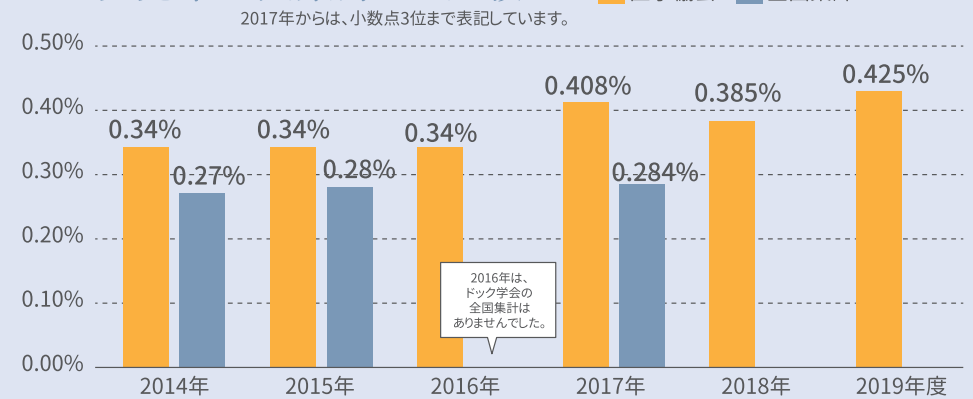
合計 91がん
受診者数計 21,859名

発見がん150件+91件
=241件を発見!!

健康診断やがん検診の「受診控え」が続いている現状ですが、本来発見されるべきがんが見落とされ、命に関わる状況になってしまう恐れがあります。がんのリスクを考え、必ず受診してください。



がん発見率全国集計との比較



当会: **0.425%** (241件/56,725名:2019年度)
全国: **0.284%** (5,071件/1,783,388名:2017年度)

医学協会は
全国平均の**1.48倍**

※(公社)日本人間ドック学会vol35「人間ドックにおけるがん登録-2017年度の成績-」より

